

日本英語教育史学会 第299回 研究例会

日時：2024年9月21日（土） 14:00～17:00

オンライン開催：申込方法については、学会ウェブサイト（<http://hiset.jp/>）内の「オンラインによる研究例会 参加方法」をご参照下さい。

参加費：無料

○ 研究発表

学校英語教育は、なぜ危機に瀕しているのか？

発表者：久保野雅史（神奈川大学）

【概要】 難化した中学校教科書で、生徒・教員が悲鳴を上げています。小学校でも英語学習への意欲が二極化するなど、学校英語教育は破綻の危機に瀕しています。原因の一つは「外国語教育の抜本的強化のイメージ」で文部科学省が設定した目標が非現実的だからです。この「国策」が、英語力が順調に伸びているようなデータ偽装が全国的に常態化する現状も引き起こしています。このような危機的状況の元凶として、教育基本法の「教育振興基本計画」の問題点について検討していきます。

○ 研究発表

母音直上方式の強勢表記の源流をたどる

発表者：上野舞斗（四天王寺大学）

【概要】 日本の辞書や教科書では、語強勢を表示するために、強音節に含まれる母音の直上に強勢符号を付与することが多い（例：applied /əpláid/）。この方法は日本独自の方法であるとされる。本発表では、この母音直上方式の強勢表記がどのように誕生したのか、なぜ誕生したのかについて、その源流をたどって検討する。

問合せ：日本英語教育史学会 例会担当 reikai(at)hiset.jp (at)を @ に変えてください。